

## 入門期の点字触読指導の実践記録

— 誰でも、どこでも出来る点字触読指導の技術を求めて—

北海道高等盲学校 教諭 鈴木重男

就学前盲幼児から中途失明者までの点字触読指導を効果的に行うことを目的に、瀬尾政雄氏が研究した入門期の点字読字能力から、認知し易い点字群を抽出し難易別に分けて指導すること（指導教材の工夫）、幼児・児童・生徒等学習者個々に応じた指導プログラムを作って指導すること（指導の個別化）、テープレコーダを用いてドリルやパーキンスプレーヤーによる打字までのサイクル指導すること（指導方法の工夫）を三原則として、昭和47年から盲幼児・児童・中途失明生徒等に点字の触読指導を行ってきた。この三点を原則として指導（S教諭、T教諭、M教諭）した事例について述べる。

## 1 はじめに

私達盲学校に勤務する者は、最低二つの指導技術が必要と言われている。一つは歩行の指導技術で、一つは点字の触読指導技術である。

北海道においては、このことを必要とする児童・生徒に出会うことが少ないのか、この二つの指導技術について論議されることはあまりない。

本稿は、筆者が昭和47年から指導の効率化を求めて実践してきた点字触読の入門期の指導について、ここ数年の指導事例を述べたのである。

## (1) 入門期の点字触読について

点字の入門期における指導は、点字の提示順序によって大きく三つに分けることができる。

## ア 五十音順指導

点字板やリベットなどを基本教具として、点字の構成を母音と子音の要素に配列して指導する方法。

## イ 点字構成ドット数順指導

1ドット（あ、わ）で構成される点字、2ドット（か、な、や、ら、お、を、い、う）で構成される点字、3ドット～5ドットで構成される点字というようにドットの多少の順によって指導する方法。

## ウ 触読難易別順指導

読みやすい点字（ア、イ、ウ、メなど）から順にランク付けして指導する方法。

である。

私は、三番目の触読難易別順指導の立場から

指導の実践を進めてきた。

## (2) 入門期の点字指導における点字提示順序

## ア 瀬尾政雄氏の研究

瀬尾政雄氏は、「入門期における点字読字能力の発達について」～盲心理研究、第14巻 P 1～18、1966～で、小学校に入学した盲児童の点字習得状況を調査して、点字の習得状態により五十音を三つのグループに分けた。

## ○ 点字触読習得難易文字の分類

易文字—れ、あ、い、う、に、ふ、め、く  
さ、お、は、た、ひ、よ、か、す  
ぬ

普通—こ、み、ゆ、せ、む、ち、て、の  
ま、ら、ろ、そ、へ、も、え、や

難文字—け、わ、を、ね、な、き、ん、り

つ、ほ、し、る、と

## イ 昭和47年～昭和49年までの指導提示順序

瀬尾政雄氏の研究をもとに、点字の形態を組み合わせ次の4段階に分けて提示した。

1 あ、め、れ、ふ、う、い、に、く

2 (こ、た)、か、(は、ぬ)、お  
(さ、よ)、ひ

3 (そ、ち)、(せ、み、も、て)

(へ、む)、(な、や)、ゆ

(ら、り、ろ、ん、え、る)

4 (す、ね)、(き、の)、(と、し)

(け、つ)、(ほ、ま)、わ、を

## ウ 昭和50年からの提示順序

前3ヶ年の実践経過をもとに、次の5段階にグループを組みかえた。

- 1 あ、め、れ、ふ、う、い、に、く
- 2 こ、か、お、よ、ひ、ぬ、の、と、な
- 3 た、さ、し、み、わ、お、ね、も、つ
- 4 ゆ、す、を、や、は、る、ま、そ、き
- 5 へ、け、ん、ほ、ら、せ、ち、り、ろ  
え、て

である。

### (3) 点字の提示方法と指導内容とその方法

点次の提示方法を易グループ(あ、め、れ、ふ、う、い、に、く)の8文字をもとに説明したい。

#### ア 8文字を諳んじれる対象児(者)

点字イメージとのマッチングにより、大半の児童・生徒は指導当日に触読可能となる。

#### ○ 点字イメージ

- あ ・ ～ 一つの点
- め □ ～ 縦長の四角(大きな形)
- わ □ ～ 小さな四角(小さなかたまり)
- ふ 一 ～ 間が空いている2本の横棒  
(ルール状)
- う 一 ～ 短い横棒
- い 一 ～ 短い縦棒
- に 一 ～ 長い縦棒
- く 一 ・ ～ 上が短い横棒で、下に離れて点がある

#### イ アより多少難しい対象児(者)

3～5文字の点字をシートに打ち、対象児(者)の背後に回って対象児(者)の左手人差し指を軽く柔らかく左から右に操作して、点一つは「あ」とイメージを与えながら繰り返し指導する。

#### ウ さらに難しい対象児(者)

2～3文字について一字一音を暗記するまで何回もドリルする。その指導後、例えば、「あ、め、れ」の3文字であれば、

- ・ 一点だけののはどれ。それはなんという字。
  - ・ 大きなかたまりはどれ。なんという字。
  - ・ 小さなかたまりはどれ。なんという字。
- と聞いて確かめることが大切である。

#### エ 提示シートの内容

点字指導の提示シートの内容は、概ね次のような体裁にしている。

- ① 新出点字を一行ずつ書く。
- ② 既習点字と新出点字を2字組み合わせ  
て書く。
- ③ 新出点字と既習点字を組み合わせた単語を書く。
- ④ ③の要領で文章を書く。

#### オ テープレコーダを用いた読み書きのサイクル指導

##### ① ベーステープの作成

点字学習シートを指導者が吹き込んだテープでドリルした後に、学習者自らがテープに吹き込みベーステープを作成する。

##### ② 自己チェック(読み)

点字学習シートでベーステープを自己チェックする。

##### ③ タイピング

ベーステープを聞きながら点字のタイピングを行う。

##### ④ 自己チェック(書き)

ベーステープを聞きながら自らがタイピングしたシートを自己チェックする。

## 2 点字入門期の指導事例

### (1) S T1 (18歳、特別指導、指導者 S)

ア 眼 疾：両視神経損傷

イ 視 力：両明暗不弁

ウ 指導開始日：昭和58年12月1日

#### エ 指導経過

第1日目 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ニ、ク

第2日目 コ、カ、オ、ヨ、ヒ

第3日目 同 上

第4日目 ヌ、ノ、ト、ナ

第5日目 タ、サ、シ

第6日目 同 上

第7日目 ミ、ワ、ム

第8日目 ネ、モ、ツ

第9日目 ユ、ス、ヲ

第10日目 ヤ、ハ、ル

第11日目 マ、ソ、キ

第12日目 同 上

第13日目 へ、け、ん、ほ、ら、せ

第14日目 チ、リ、ロ、エ、テ  
 第15日目 清音全ての文章、長音  
 第16～19日目 濁音・促音の単語と文章  
 第20日目 拗音など

昭和59年1月24日	783字/46分	17 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 2月24日	556字/8.88分	63 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 3月23日	756字/9.68分	78 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 4月24日	711字/8.16分	87 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 5月16日	801字/9.33分	88 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 6月23日	784字/8.28分	95 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 7月24日	842字/7.88分	109 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 8月24日	816字/7.5分	109 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 10月24日	792字/6.57分	121 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 11月19日	820字/7.09分	116 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$

(2) S T2 (17歳、特別指導、指導者 S)

ア 眼 疾：網膜剥離  
 イ 視 力：右一明暗不弁 左一0.02  
 ウ 指導開始日：昭和58年12月14日  
 エ 指導経過

第1日目 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ニ、ク  
 コ、カ、オ  
 第2日目 ヨ、ヒ、ヌ、ノ、ト、ナ  
 第3日目 サ、シ、ミ、ワ、ム、ネ、キ、ラ  
 タ、リ、エ、ヤ、ナ、ト、ノ  
 第4日目 モ、ツ、ユ、ス、ヲ  
 第5日目 ハ、ル、マ、ソ  
 第6日目 セ、チ  
 第7日目 ロ、テ、清音全ての文章、長音  
 第8日目 濁音  
 第9日目 半濁音  
 第10日目 拗音など

昭和58年12月24日	783字/43.38分	18 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
昭和59年1月8日	783字/22.8分	34 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 2月8日	589字/8.55分	69 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 3月8日	819字/7.58分	108 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 4月8日	521字/5.23分	100 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 5月8日	829字/7.16分	116 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 6月8日	828字/6.13分	135 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 7月5日	836字/5.85分	143 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 10月22日	827字/5.65分	146 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 11月21日	761字/4.97分	153 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$

(3) MK (16歳、1日1～2時間  
 指導者 T：新任1年目)

ア 眼 疾：高度近視  
 イ 視 力：右一0.02 左一0.02  
 ウ 指導開始日：昭和59年4月10日

エ 指導経過

第1日目 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ニ、ク  
 第2日目 コ、カ、オ、ヨ、ヒ  
 第3日目 ヌ、ノ、ト、ナ、ワ  
 第4日目 タ、サ、シ、ミ  
 第5日目 ム、ネ、モ  
 第6日目 ツ、ユ、ス、ヲ  
 第7日目 ヤ、ハ、ル、マ、ソ  
 第8日目 キ、ヘ、ケ、ン  
 第9日目 同上  
 第10日目 ホ、ラ、セ、チ  
 第11日目 リ、ロ、エ、テ  
 第12日目 同上、長音  
 第13～16日目 濁音  
 第17日目 促音  
 第18日目 半濁音  
 第19～24日目 拗音など

昭和59年6月2日	808字/27.20分	30 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 7月2日	797字/14.67分	54 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 8月21日	402字/8.13分	49 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 9月3日	730字/11.62分	63 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 10月19日	826字/9.88分	84 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 11月5日	823字/12.2分	64 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
" 12月3日	839字/10.6分	79 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$
昭和60年2月4日	827字/9.40分	88 $\frac{\text{ℓ}}{\text{m}}$

(4) K I (16歳、特別指導、指導者 T)

ア 眼 疾：視神経萎縮  
 イ 視 力：右一0.02 左一0.02  
 ウ 指導開始日：昭和60年4月9日  
 エ 指導経過

第1日目 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ニ、ク  
 コ、カ、オ、ヨ  
 第2日目 ヒ、ヌ、ノ、ト、ナ  
 第3日目 タ、サ、シ、ミ  
 第4日目 ワ、ム、ネ、モ、ツ  
 第5日目 ユ、ス、ヲ、ヤ  
 第6日目 ハ、ル、マ、ソ

- 第7日目 キ、ヘ、ケ、ソ
- 第8日目 ホ、ラ、セ、チ
- 第9日目 リ、ロ、エ、テ
- 第10～12日目 清音全ての文章、長音
- 第13日目 促音
- 第14日目 濁音
- 第15日目 半濁音
- 第16～19日目 拗音など

昭和60年5月7日	340字 / 12.18分	28 $\frac{l}{m}$
〃 6月7日	592字 / 9.07分	65 $\frac{l}{m}$
〃 7月6日	703字 / 9.57分	73 $\frac{l}{m}$
〃 9月7日	734字 / 7.25分	101 $\frac{l}{m}$
〃 10月7日	619字 / 5.17分	120 $\frac{l}{m}$
〃 11月8日	738字 / 6.72分	110 $\frac{l}{m}$
〃 12月6日	643字 / 5.35分	120 $\frac{l}{m}$
昭和61年1月22日	643字 / 5.32分	120 $\frac{l}{m}$
〃 2月21日	528字 / 4.2分	126 $\frac{l}{m}$
〃 3月18日	741字 / 5.15分	144 $\frac{l}{m}$

(5) A O (33歳、始業前30分間のテーブル学習  
指導者 M: 新任2年目)

- ア 眼 疾: 緑内障 (ベーチェット病)
- イ 視 力: 右一明暗不弁 左一 0.02
- ウ 指導開始日: 昭和61年4月21日
- エ 指導経過
- 第1日目 ア、メ、レ、フ
- 第2日目 ウ、イ、ニ、ク
- 第3日目 コ、カ、オ、ヨ
- 第4日目 同上
- 第5日目 ヒ、ヌ、ノ、ト
- 第6日目 同上
- 第7日目 ナ、タ、サ、シ
- 第8日目 ミ、ワ、ム
- 第10日目 ネ、モ、ツ
- 第11日目 ユ、ス、ヲ
- 第12日目 ヤ、ハ、ル
- 第13日目 テスト
- 第14日目 マ、ソ、キ
- 第15日目 同上
- 第16日目 ヘ、ケ、ソ
- 第17日目 ホ、ラ、セ
- 第18日目 チ、リ、ロ
- 第19日目 エ、テ

- 第20・21日目 同上
- 第22日目 長音
- 第23・24日目 同上
- 第25～33日目 清音全ての文章、 $\frac{5}{17} \sim \frac{6}{13}$
- 第34～48日目 濁音、半濁音、拗音など
- 昭和60年7月5日 点字シートの読み
- 〃 9月8日 102字 / 6.1分 17  $\frac{l}{m}$
- 〃 10月6日 180字 / 5.0分 36  $\frac{l}{m}$

(6) K T (44歳、教育相談、指導者 S)

- ア 眼 疾: 黄斑部変性症
- イ 視 力: 両 0.06 (周辺視力)
- ウ 指導開始日: 昭和61年8月30日
- エ 指導経過
- 第1日目 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ニ、ク
- 第2日目 コ、カ
- 第3日目 オ、ヨ
- 第4日目 ヒ、ヌ
- 第5日目 ノ
- 第6日目 ト、ナ
- 第7日目 タ、サ
- 第8日目 シ、ミ
- 第9日目 ワ
- 第10日目 ム、ネ
- 第11日目 モ、ツ
- 第12日目 ユ、ス
- 第13日目 ヲ、ヤ
- 第14日目 ハ、ル
- 第15日目 マ、ソ、キ
- 第16日目 ヘ、ケ、ソ、ホ、ラ、セ、チ、リ  
ロ、エ、テ、濁音、長音
- 第17日目 濁音、半濁音、促音
- 第18・19日目 拗音など ( $\frac{10}{6} \cdot \frac{10}{7}$ )

3 おわりに

本指導事例並びに拙稿「点字は、600分でマスターできる」～道視究No.19、P18-22、1974～「北海道高等盲学校の養護・訓練」～道視研No.37、P33-34、1982～での小1(2名)、中学(3名)中失者(27歳)の指導事例からも拙稿「個別的点字触読指導法」～盲教育52号P40-46、1981～で述べたように本指導方法を用いることによって短期間で点字の入門期を終了することが分かった。

なお、本稿に関して諸先生のご批判を戴きたい。